

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書③

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>① 身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒</p> <p>② 個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>① 生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく探究的な授業を実施します。</p> <p>② 培った知識・スキルを活かし、主体・協働的な活動を通じて、キャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」を実施します。</p> <p>② ユネスコスクールとしてESDを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動を実施します。</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>① 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒</p> <p>② 自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒</p> <p>③ ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒</p>

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路情報を示し、生徒の可能性を引き出す」項目は肯定的な意見が生徒83%、保護者80%であり、「将来の希望にそった具体的な進路指導」項目は肯定的な意見が生徒85%、保護者81%であった。満足度が80%を超えているため、概ねニーズにあった進路指導ができたと思われる。しかし同じ項目を昨年度と比べると「あまりあてはまらない」という回答が4%ほど増加した。きめ細かい進路指導が生徒全員にはできておらず、一部ではあるが保護者のニーズに応えられていないことが問題であると思った。また、受験・進路に対して情報量が多く、その選択に対して支援が必要であると感じた。 今年度、探究活動は担当を付けて特に2年生を企業・大学といった地域と繋げられるように組織した。この活動を「分からない」と回答した保護者が39%と昨年同様高いところから、探究活動を充実させ外に向けて発信する必要があると感じた。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学年ごとに積み上げる確かなキャリア教育を通して、学習意欲の喚起と学力の向上に努め、生徒の多様な進路希望を支援します。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導委員会 ・教育課程委員会 ・探究委員会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 平常補習・夏季補習、スタディサプリを活用し、確かな学力をつけさせます。</p> <p>(2) 探究活動を行い地域と連携しながら、一人一人に合った指導を行い、進路実現に導きます。</p> <p>(3) 小中高と連続したキャリアパスポートを活用し、在学中の活動と成長を記録し自己肯定感を高めさせることで、進路選択に役立てます。</p>	<p>(1) スタディサプリ活用率100%、到達度テストの活用</p> <p>(2) 補習参加者数と出席状況、アンケート調査満足度80%以上</p> <p>(3) キャリアパスポートを活用し「一年間の振り返り」で肯定的評価80%以上</p>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価																
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの実施や、専門外部講師による進路講演会のWEB配信の実施 ・生徒個々の進路設計に向けた、学年毎の系統立った体験型進路ガイダンスの実施 ・進学、看護、就職希望者それぞれに対応した各種外部模試の実施 ・推薦入試に向けた全学年対象の小論文指導と小論文模試の実施 ・総合型選抜や学校推薦型選抜に向けた全職員体制の指導の充実 ・学習方法の工夫、学習支援ツールの活用 ・「スタディサプリ」で学年体制での学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路ガイダンスの実施講演会WEB配信数 ② 各ガイダンスの参加率 ③ 模試等の生徒参加率 ④ スタディサプリのアクティブライト率・宿題配信数 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">C</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">C</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">C</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">C</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
A	B	C	D															
12 成果 ・ 課題	<p>○各学年の進路ガイダンスはコロナ禍ではあったが、計画通り実施することができた。保護者には昨年度と同様、YouTubeによるweb配信を使い、有意義な情報を提供できた。特に2・3年生、看護講座・国公立対策講座は有意義な講話となり、参加した生徒の満足度も高かった。</p> <p>今年度より1年生が単位制となったため、コース登録が行われる6月に合わせ職業別ガイダンスを新しく実施した。大学・企業・専門学校の担当者から各分野の詳しい説明が聞けて、コース選択の参考となった。</p> <p>また、インターンシップに関しては昨年度と同様2・3年生に職業体験をさせ職業観の育成を図った。今年は新たに2年生就職希望者を対象に企業にインターンシップを実施した。</p> <p>○今年度は8月に「卒業生と語る会」を実施することができ、国公立大学に合格した生徒に対し受験について、高校生活について話をしたFormsを使い質問を募ったが、本校在校生が予想以上に質問をすることができた。</p> <p>○外部模試は就職から国公立大学志望者に対応できるよう、就職・公務員試験を始め、ベネッセ、河合塾、看護模試等、様々な模試を予定通り実施した。模試結果を基にweb版コンパスを活用することで精度の高い指導・助言が可能となった。</p> <p>○各学年の探究活動を組織的に計画・実行することができた。特に2年生は企業・大学といった地域と繋げながら、他方面からアドバイスをいただいた。探究活動の成果を各種コンテストに申し込むことで外部評価をいただくことができた。また3年生は卒業前の午前授業を利用して、進路についてまとめることができた。</p> <p>▲全校生徒が学習支援システム「スタディサプリ」を活用しており、学級閉鎖などの間には授業の補助として役立った。今年度より3年生全員にスタディサプリに加入をして自発的な活用を呼びかけたが、6月以降の使用状況が課題となった。進路先に向けて、また進路決定後に、基本的な学習習慣の定着を図るためにも外部ツールを活用できるといいと思った。</p>		<p style="text-align: center;">総合評価</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">A</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">B</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">C</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D											
A	B	C	D															
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度1・2学年が単位制になるため、コースに特化した進路行事が必要になる。特に10月実施の進路ガイダンスはコースの特色を出すように、各コースの目標進路に合わせ内容を精選し、学年・教科と連携して進路行事を行う必要がある。 ・基礎学力の定着を図るため、スタディサプリの活用を行った。今年度は特に3年生の6月以降のスタディサプリのアクティブが伸び悩んだ。担当教員が宿題配信するだけでなく、生徒が自発的に学習する方法を考える必要がある。来年度は長期休み明けの課題考査の代替として、実力診断テストを年2回実施する。実力診断テスト後に連動課題を配信し苦手単元を明確にすることにより、自発的な学習を促す。 ・今年度探究活動が進路指導部担当となり、進路につなげる活動として計画をした。個別で指導を行うことによる担当職員の負担等、課題も多岐にわたるような組織にしていくか検討が必要である。 																	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリは小4から高3までの授業が視聴でき学び直しができるため、非常にいいシステムだと思う。大学受験に間に合うように計画的に利用するように促すとよい。 ・来年度コース別のガイダンスを充実させて、生徒がどのような仕事に就きたいかで自分の進路を決めるとよい。
--